NOW IS.

宮城は現在(いま)も
現実(いま)に
立ち向かう。

Vol. 22
February, 2018
ナウイズ
毎月11日発行

葉加瀬マイ・袴田彩会 in 仙台

TBC東北放送

撮影地：荒浜地区の海岸

宮城に来て、感じてほしい。復興の今の姿。

農業組合法人井土生産組合
鈴木保則さんと自慢のネギ畑で。

頑張る人と変わらない景色。葉加瀬マイさん、袴田彩会さん姉妹と仙台市沿岸部へ。

被災地に足を運んで「今」を見てほしい

震災前、仙台市の沿岸は30万本の松林に覆われ、海風や高潮から街が守られてきました。現在は、残った松の黒い影がぽつぽつと歯抜けのように立つだけです。

震災遺構仙台市立荒浜小学校
この校舎を4.2mの津波が襲いました。今も津波の跡を壁に見ることができます。

冷たい風が吹く冬の日、タレントの葉加瀬マイさんとTBC東北放送アナウンサー袴田彩会さんが仙台市を訪れました。二人は姉妹。「妹が宮城でアナウンサーになってから、東北がぐっと身近になりました。それまでは被災地のことはピンと来ていなかった」と葉加瀬さん。袴田さんも「たしかに。東京の友人に宮城のことを話すと、もう復興してるんでしょ、と言われます」とうなずきます。「だから、宮城に行くよって言われたら、私、必ず『海の方へ行ってみてね』って言うようにしてるんです。ここに来たら、感じることが必ずあると思うので」。

復興を支える人 当時を伝える小学校

荒浜小学校の黒板には、卒業生や地元の方、見学者などが寄せたメッセージが今も残されています。

最初に訪れたのは、ブランドねぎ『仙台井土ねぎ』を作る井土生産組合。ミネラル豊富な水の恵みと土の改良で、糖度16度にもなるネギを生み出しました。サンドウィッチマンと一緒に番組で訪れ、すっかりネギのファンになった袴田さんは「オリーブオイルで焼いただけでおいしいんです！」。組合の代表鈴木保則さんは「震災後、農業のプロ15人が集まって知恵を集約した。おかげで土もだんだん良くなり、買っていただける方も増えました」と話します。独自で開発した『井土ねぎだれ』も「おいしい！買う！」と袴田さん。

次は「震災遺構仙台市立荒浜小学校」を訪れました。当時の姿を残す薄暗い空間。津波直後のがれきに覆われた教室の写真を目にし、二人は言葉少なに語ります。「こんな辛いことが、同じ日本で起きたんだよね」と葉加瀬さん。袴田さんは「井土生産組合みたいに頑張っている人たちのところから、すぐのところに、こういう遺構がある。両方知ってほしいし、忘れちゃいけないと思います」。

キリンビール仙台工場の売店にて
南三陸町で生産している『タコのアヒージョ』に「おいしそう！」と声を上げる葉加瀬さん。

最後に訪れたキリンビール仙台工場では、県内各地の復興の様子を情報発信するプロジェクトを2015年から行っています。この日は南三陸町の特集。二人はキリンビアポート仙台で、名産のホヤやタコを使った料理を味わいました。葉加瀬さんは「ボリュームたっぷりで、タコもぷりぷりです」と笑顔。さっそくSNSで料理の写真を発信。「食べて応援というのはとってもいい方法だと思います。こんなにおいしいものがあるんだから。みんなに今日見たことを伝えて、東北を感じてもらえたらと思います」。

沼田佐和子

南三陸町の特産品を使った料理
タコや名産の野菜が入り、ボリューム満点。3月まで提供予定。

PROFILE

葉加瀬 マイ（右）
はかせ　まい

袴田 彩会（左）
はかまだ　あやえ

袴田彩会
静岡県出身。TBC東北放送アナウンサー。2013年に入社後、朝の情報番組『ウォッチンみやぎ』や、宮城県各地をサンドウィッチマンとともに歩く『サンドのぼんやり～ぬTV』などにレギュラー出演。

葉加瀬マイ
静岡県出身。タレント。2012年にデビュー後、週刊誌のグラビアページや「サンデージャポン」などのバラエティ番組で人気を博し、ドラマ、映画などに活動の幅を広げる。

a walk this town ! この街の“今”を探索

震災遺構仙台市立荒浜小学校

東日本大震災の津波で被災した校舎のありのままの姿と、映像や被災直後の写真などを展示。来館者に津波の威力や脅威を実感してもらい、防災・減災の意識を高める場として、2017年4月から公開されています。

井土生産組合

仙台市井土地区は震災後、多くの住民が地区を離れましたが、井土地区の農地を守り続けたいと2013年1月に「井土生産組合」が設立されました。試行錯誤を重ね、甘みの強い「仙台井土ねぎ」を収穫・販売し、ブランド化を進めています。

キリンビール仙台工場

2008年から仙台市と津波避難ビル協定を結び、市や地域住民と協同で総合防災訓練を行っています。東日本大震災では、400人以上が避難しました。震災後は「復興応援キリン絆プロジェクト」を立ち上げ、復興支援にも取り組んでいます。

せんだい3.11メモリアル交流館

震災被害や復興の状況などを伝える常設展と、仙台市東部沿岸地域の暮らしや記憶など、さまざまな視点から震災を伝える企画展で構成。ワークショップやフィールドツアーなど多彩なイベントも開催され、震災の記憶を伝えていくための活動となっています。

津波避難タワー

仙台市東部地域に、津波避難施設を13カ所整備。このタワーは、防災行政用無線機器の設置、備蓄品や防寒対策品、避難時のストレスに配慮した内部空間など、震災の教訓を活かした設計になっています。防災訓練にも活用し、防災意識の定着を図っています。

仙台市荒浜地区（震災遺構仙台市立荒浜小学校屋上からの眺望）

Support Power

the 応援職員

NOW IS. 仙台 Sendai

PROFILE

名取市　教育委員会教育部　庶務課施設係

丹野（たんの） 新（あらた） さん

仙台市より名取市に派遣

一つの学校を創りあげる喜びを感じた。

ランチルームからは閖上の海を一望できる。

2018年4月に開校する、名取市立閖上小中学校。

宮城県内被災地の早期復興を支援するため、2012年から県内市町へ職員を派遣している仙台市。その一人として、2016年4月から名取市に派遣されたのが丹野さんです。「津波被害を受けた沿岸部の復興に携わる仕事は担当していなかったので、そういう仕事ができるなら、ぜひ行きたいと思っていました」。

現在名取市では、東日本大震災で被災した閖上小・中学校を市で初めての施設一体型小中一貫教育校として再建する準備を進めています。丹野さんは建築の技術職として、その現場管理を担当。学校や名取市側の要望をまとめ、現場と打ち合わせをしながら工事を進めてきました。「小中一貫校なので校庭や体育館、特別教室なども共有。例えば、水飲み場一つとっても、小学生と中学生の身長差を考えるなど配慮が必要です。私自身、仙台市でも小中一貫校建設の経験がなかったので、難しくもあり、新鮮でした。異年齢との交流も教育の一環として取り入れているので、校舎4階には全校生徒がみんなで給食を食べられるランチルームもある。面白い取り組みですよね」。

また、担当する業務も多岐にわたったと言います。「仙台市は職員が多いので、建築・電気・土木など細かく業務が分担されていましたが、名取市ではそうはいきません。専門は建築ですが、電気工事も担当しなくてはいけない。幅広い知識が要求されるので、かなり勉強しました」と丹野さん。個人のスキルアップにもつながったそうです。

閖上小中学校の開校は今春4月。入学予定の子供や保護者への見学会も開催しました。「仙台市出身の自分にとって、自宅からも近く、親戚も暮らしていた名取市沿岸部は馴染みのある土地です。震災直後の状況を知っているところで、一つの学校を創りあげていく過程に携われたことは、貴重な経験。見学会で子供たちが新しい校舎を見て喜んでいる姿が、何よりも嬉しかったです。みんながどんな学校生活を送っていくのか、4月の開校が楽しみですね」。

info/area

{エリア情報} 復興や防災にまつわるニュースをお伝えします

「仙台防災未来フォーラム2018」
―命を守り、地域に根ざす企業防災の取り組み

地域企業における震災から得た経験と教訓、企業内での防災・安全対策等の取り組み、防災CSR活動に関する事例発表等を通じて、企業と地域における実践的な防災・減災活動について考えます。

- ●日時：2018年3月9日（金）14:00～16:20（開場13:30）
- ●場所：エル・パーク仙台　6階 ギャラリーホール
- ●定員：200人［先着：3/2（金）〆］、定員に達しない場合は当日入場も可
- ●申込み：「仙台防災未来フォーラム2018」JHPまたは「お名前、ご所属、電話番号、メールアドレス」を記入いただきFAX送信
- ●TEL：214-8098、FAX：214-8497（仙台市防災環境都市推進室）
  http://sendai-resilience.jp/mirai-forum2018/

「海岸公園の災害復旧について」

仙台市では海岸公園蒲生・荒浜・井土地区の復旧に取り組んできています。復興のシンボルとなる公園を目指し、防災の視点や自然環境に配慮しながら、市民が安心して来園できるよう、緊急時に一時避難場所となる避難の丘も整備しました。蒲生・荒浜地区は昨年利用を再開しており、井土地区は2018年夏頃に再開予定です。

問 022-214-8357（仙台市建設局百年の杜推進部公園課）

今月のガイド

キリンビール株式会社
仙台工場 総務部広報担当

山田（やまだ） 祥子（しょうこ） さん

「通常は広場に避難するのですが、津波警報が出たので屋上への避難に切り替えました」と話す山田さん自身も、震災当時は屋上へ避難したひとり。東日本大震災の地震発生後、わずか40分後には、従業員と工場関係者、来場者や近隣住民など計481名の避難が完了したそうです。

キリンビール仙台工場は、仙台市と津波避難ビル協定を結んでいます。1階にあった災害用の備蓄が津波で流されたため、3階に変更。敷地が広いのでどこにいても避難できるよう、2か所だった避難場所を7カ所に増設、避難誘導のための拡声器設備も設置しました。「震災の教訓を活かし、今後も津波避難ビルとしての役割を果たしたい」と山田さんは話します。

記者の視点

困難な「震災の伝承」
語り部の苦悩に見る被災地の課題

資料写真を手に被災状況を説明する岩崎さん　仙台市若林区荒浜

筆者プロフィール

河北新報社報道部

武田（たけだ） 俊郎（しゅんろう） さん

1974年生まれ、秋田県出身、97年入社、報道部

東日本大震災の発生からもうすぐ7年。記憶の風化が懸念される中、各地で「語り部」と呼ばれる人たちが震災の伝承に力を入れている。仙台市では、運転手が「語り部」となって宮城県内の沿岸部の被災状況を現地で解説する「語り部タクシー」事業がある。

運営する県タクシー協会仙台地区総支部が2012年10月に始めた。「語り部」認定を受けた支部加盟31社の運転手約180人が現在も沿岸部を案内する。

この事業の利用低迷を16年5月に取材したが、その後も回復の兆しはない。13年度の1851件をピークに減少傾向が続き、16年度は757件に落ち込んだ。

先月下旬、岩崎弘さん（70）の語り部タクシーを約2年ぶりに取材した。岩崎さんの表情は暗かった。利用者減に加え、仙台近郊で被災直後の様子を伝える建物は、震災遺構の旧荒浜小以外、ほとんど撤去されてしまったからだ。

「かつての津波浸水域を案内しても、写真を見せて被災状況を口頭で説明するしかない。津波の怖さや被害の甚大さがどれほど伝わるか、心もとない」。

震災の記憶や被災地への関心が薄れていく焦燥感。被災地を訪れた人に、震災の教訓を十分に伝え切れないもどかしさ。岩崎さんの苦悩は、多くの被災地に共通する課題だ。

事業について仙台地区総支部は「利用の申し込みがある間は続けたい」と言う。「震災報道も同じ。諦めてはいけないよ」と背中を押された気がした。

NOW IS. 防災

思い出し、もう一回考える

宮城県各地で行われている防災・減災の取り組みから、日々の備えに生かせるヒントを探していきます。

毎週月曜の20時、TBCラジオから被災地の情報が流れます。内容は復興に携わる人のインタビューや防災情報などさまざま。東日本大震災を伝え続けることを使命に、震災から7年経つ今も欠かさず放送し続けています。被災地の情報を継続して発信することは、どんなふうに「防災」に役立つのでしょうか。

〈取材協力〉TBC東北放送

家庭防災のヒント

1 生の声を聞くと、記憶がよみがえる

文字や伝聞で聞くより、実際に経験した本人の生の声は強く心に残ります。震災の記憶は年々薄れていきますが、生の声を聞くことで、自分の経験や反省を思い出し、未来の防災に役立てることができます。

2 震災を経験していない人の入り口に

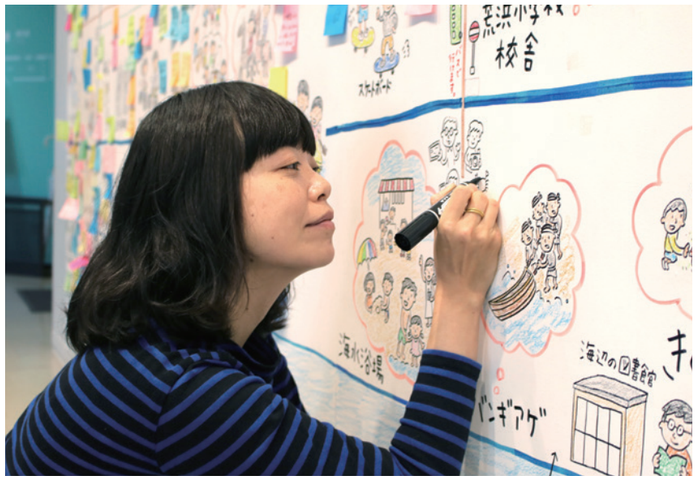
TBC東北放送では、震災を経験していない人にこの番組のリポートを任せることが多いそう。現場を感じることで、震災への理解が深まるからです。聞く側も同じ。あの日を知らない人に経験を伝えることで、復興への理解が深まります。

3.11みやぎホットライン
（TBC東北放送 月曜 20:00～20:30）

東日本大震災発生から1ヶ月後の2011年4月、「震災関連情報をこの先ずっとリスナーに届けていく」誓いのもと、スタートした報道番組です。被災地の現状と課題、復興に向けた歩みをアナウンサーが取材、リポート。これまで、津波被害を受けた農地を再生する取り組みや、新たな商店街で再起を誓う店主、震災を風化させないため「語り部」になった高校生など、様々な世代の人たちの思いを伝えるとともに、"防災"についても考える機会としています。

防災のヒントや復興の道筋が詰まった番組。被災地のいま・未来の命をどう守るか、これからも宮城から発信し続けます。

誰かの思い出を代わりに絵にしてあたたかい気持ちを届けたい。



（上）多く寄せられた海水浴場の思い出を描くジュンコさん。
（左）白いパネルに描かれた巨大なイラストマップ。来場者は思い出を自由に付せんに描いて貼れる。
（右）イラストマップに絵を書くきっかけになった書籍「オモイデピース」。この本にも震災の前の思い出が集められている。（交流館で閲覧可能）

みんなの物語を聞きながら ライブペイントで仕上げる

ジュンコさんがイラストレイターとして一本立ちしたのは2015年。東日本大震災が起きた2011年は、仙台市内の書店で働いていました。「本棚がばたばた倒れて1ヵ月間営業できませんでした。その間、周りの人はボランティアに行ったりしていたのですが、私は、力が湧かなくて、何もできなかった。書店が再開して、働けるようになったあとも、あの時何もできなかった負い目が、ずっとあって、気持ちの底がモヤモヤしてたんです。だから、イラストマップのお話をいただいたとき、ああ、やっとできると思いました」。

このイラストマッププロジェクトがスタートしたのは2015年。「来館者の方が、沿岸部への思いや思い出を書いて貼った付せんがどんどん増えていきました。付せんがいっぱいになったため、ライブペインティングでイラストを追加しました。「付せんを見ながら、こういう生活があったのかな、とか考えるのが楽しいんです。ここはどうやって描こうかな？と悩んでいると、通りがかったおばあちゃんが、昔はここでキノコ狩りしたんだっちゃねって教えてくれたり。こういう人がいたんだよ、とか、こういうことしたんだよ、とか物語を聞けるのがすごくよかったです」。

今も未来も描ける 変わっていくマップ

ジュンコさんは、絵を書いている途中で、不思議な感覚を覚えることがあるそうです。「みんなの思い出が私自身の思い出になっていくような感覚になることがあるんです。私は、誰かにこの思い出を代筆して、届けたいな、って。この場所に誰がいて、何を食べて、どんな生活があって、今どんな営みがあるかということは、とっても伝わりにくいし、消えやすいことです。この地図を見て、ああ、こんな人が暮らしていたんだ、って気持ちがあったかくなったり、身近に感じたらいいな、と思っています」。

過去だけでなく、今と未来も書けるのがこの地図の魅力だと言います。「この前のライブペイントでは、3.11オモイデツアーの絵を書きました。荒浜や蒲生を訪ね、住民の方と触れ合い、かつての営みを知ることのできるイベントです。日本一低い山・日和山の絵も追加しています。これからはこういう取り組みが増える度に新しい絵を描いていける。そういうふうに、この地図は、沿岸の街の変化に合わせて変わっていく地図になったらいいなぁ、と思うんです」。

イラストを描いた場所でも、まだ実際に行ったことがないところが多いそう。今年は、自分で歩いて行ってみたいなと思っていますと、人懐っこい笑顔を見せてくれました。

震災の記憶を後世へ

震災の記憶の風化防止と教訓を後世に伝承していくための施設整備が、県内各地で進められています。

昨年は、巻頭特集でも訪れた「震災遺構仙台市荒浜小学校」や震災遺構のJR旧野蒜駅プラットフォームを中心に整備された「東松島市東日本大震災復興祈念公園」が公開されました。宮城県沿岸部を訪れた際は、ぜひ足を運んでみてください。

震災遺構仙台市荒浜小学校

東松島市東日本大震災復興祈念公園（写真提供：東松島市）

PROFILE

イラストレーター

佐藤（さとう） ジュンコ（じゅんこ）さん

1978年福島県生まれ。書店員時代、友達に配っていたフリーペーパー「月刊佐藤純子」がきっかけで、エッセイマンガやイラストの道へ。震災のころに考えたあれこれは、書籍『月刊佐藤純子』に詳しい。

NOW IS. vol.22 ナウイズ

発行：2018年2月11日　宮城県震災復興本部（事務局：震災復興推進課）
〒980-8570　宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
Tel：022-211-2443　Fax：022-211-2493
『復興情報発信プロジェクト NOW IS.』は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

宮城県 Miyagi Prefectural Government

INFORMATION from MIYAGI 〔宮城県からのお知らせ〕

01 宮城県北部及び東部被災者転居支援センターの統合について

これまで、北部(登米市)及び東部(石巻市)支援センターにおいて行ってきた応急仮設住宅入居者への住宅再建支援について、4月から東部支援センターに機能を集約して業務を行う予定です。

本支援センターでは、応急仮設住宅の供与期間終了に向けて、住宅再建方法が未定の入居者に対し、市町から提供される入居者情報などに基づき戸別訪問による相談支援を行うほか、各世帯に応じた福祉サービスなどの紹介を行っています。

ご利用を希望される方は、被災当時お住まいだった市町村の被災者支援担当課などへご相談ください。

問.県震災援護室
☎.022-211-3257

02 宮城県石巻合同庁舎が移転します

これまで石巻合同庁舎及び東部土木事務所は、石巻市東中里で業務を行っていましたが、新石巻合同庁舎が完成し2月末より順次移転します。移転完了までご不便をお掛けしますが、ご理解いただきますようお願いいたします。

移転先
〒986-0861 石巻市蛇田字新沼田12番地4街区1画地

主な交通アクセス
●JR利用の場合
石巻あゆみ野駅から北へ約600m（徒歩で約8分）
●車利用の場合
三陸自動車道石巻港ICから東へ約1.2km
（車で約3分）

問.県石巻合同庁舎
☎.0225-95-1411（代表）

問.県管財課
☎.022-211-2354

各入居機関と業務開始日

入居機関	業務開始日
東部県税事務所 東部保健福祉事務所 東部教育事務所	2018年2月26日（月曜日）
東部地方振興事務所	2018年3月5日（月曜日）
東部児童相談所 東部土木事務所	2018年3月12日（月曜日）

MEDIA INFORMATION

みやぎ復興情報ポータルサイトはコチラから！

http://www.fukkomiyagi.jp

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取り組みなどを発信します。

最新情報をブログで！

今月のブログピックアップ

いわたかれん
復興フォト
岩田 華怜

仙台市出身の女優。AKB48を卒業し、被災地の「今」を伝えたいと写真の勉強を始めました。

これまでの被災地訪問は80回を超える岩田さん。「写真」に想いを込めて、月1回被災地の情報を発信しています。今回は東松島市・松島町。冬空の中「この寒さがどこか落ち着く」と撮り続けていました。

宮城発！
元気と食の最新情報
一般社団法人 IkiZen

震災復興に軸足を置き、被災地の企業の販路開拓や商品開発、広報活動支援などを行っています。

このブログでは、被災地企業や団体のさまざまな取り組みを発信しています。今回は「食を通じて宮城の良さを発信し、地域活性化につなげたい」との想いで開店した松島町の「M Pantry」をご紹介します。

詳しくは、「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS.復興レポート」をご覧下さい。

●いまを発信！復興みやぎ　SNS「いまを発信！復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしています。ハッシュタグ「#fukkomiyagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。

●NOW IS.メールマガジン　NOW IS.の発行日（土日・祝日のときは翌平日）にメールでお知らせします。 NOW IS.メールマガジン で検索して登録！

取材こぼれ話 Voice from STAFF

復興応援 キリン 絆プロジェクト

キリンビール仙台工場は、東日本大震災の津波で工場が被災しながらも、地域の避難場所として機能し、震災後は防災機能の見直しを行っています。また、「復興応援キリン絆プロジェクト」を立ち上げ、東北・熊本の被災地支援を続けています。プロジェクトは長期的で、支援地域の担い手育成にまで及んでいます。

被災した経験があるからこそ、やるべきことがある、その想いは私たちも同じです。

宮城県の東日本大震災死者数（関連死含む） 10,564人 | 行方不明者数 1,226人　2017年12月31日現在宮城県危機対策課調べ

Vol. 22
February, 2018
ナウイズ
毎月11日発行

宮城は現在(いま)も
現実(いま)に
立ち向かう。

NOW IS.

佐藤ジュンコ
イラストレーター

思い出と未来がまじる“正しくない”地図。

仙台市の沿岸部、地下鉄荒井駅に併設した「せんだい3.11メモリアル交流館」。2階に上がると、壁いっぱいのカラフルなイラストマップが目に飛び込みます。津波で被災した地域を中心としたこの地図は、このエリアに思い出がある人、みんなで作っています。まず、交流館を訪れた人が「ここで潮干狩りした」「渡し舟があった」など、思い出を付せんに書いて壁にペタッ。そして、その付せんを読み、イラストにするのがイラストレイターの佐藤ジュンコさんです。

「この地図を描き始めたとき、デザイナーの方に、ジュンコさんは正しい地図を書こうとしなくていいって言われたんです。失ったもの、みんなが残したくても残せなかったものを地図にしてほしいんです、って。思い出は、本当にあったこととずれているかもしれない。過去と今が混ざっているかもしれない。でも、そういう時間の層が一枚になっているのが、みんなの思い出の地図なんです」。